

Japan Auto Parts Industries Association

# JAPIA NEWS

2017  
9・10

隔月刊  
(通巻721号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

特 集

## 「日欧の新たな 経済連携協定が実現」

寄稿

「自動走行に関する北海道の取組について」

会員企業紹介

IPF (群馬県高崎市)

中部支部視察報告 環境部会

<http://www.japia.or.jp>

# YOROZU



サスペンションシステムを通じて新たな価値を生み出し、  
“ヨロズブランドを世界に”

## 株式会社 ヨロズ

〒222-8560 神奈川県横浜市港北区樽町3-7-60

YOROZU

検索



# Koito



## 安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして  
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号

TEL: 03-3443-7111 (代表) <http://www.koito.co.jp>

# 変わる、進む、未来を創る



自動車部品事業/情報環境機器事業/外販設備、金型事業

## フタバ産業株式会社

〒444-8558 愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地

TEL 0564-31-2211

URL <http://www.futabasangyo.com/>

 **CHERRY GASKET**

チェリーは、時代を超えて  
語り継がれるブランドです。



## 石川ガスケット株式会社

本社 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-5-5桜ビル  
TEL 03-3501-0371 (代表)

# イワタボルトの グローバルネットワーク



## 国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木・上田・群馬
- ・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田・SOFI 課・海外課
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋
- ・刈谷・三重・大阪・広島・福岡・久留米

## 海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ (ロサンゼルス・アトランタ・オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ (グアダラハラ・ケレタロ)・カナダ

## 認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	YKA200001	LRQA
	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	0772850	LRQA
アメリカ	ISO/TS 16949:2009	IWATA BOLT USA,INC	TS613385	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA,INC	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.LTD.	C2015-01314	PERRY JOHNSON
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT THAILAND CO.LTD.	C2015-01313	PERRY JOHNSON
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	0079530	TÜV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	04100062166	TÜV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	04104062166	TÜV NORD

# 【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表)

<http://www.iwatabolt.co.jp/>

「企業は人」  
人材育成  
環境が変化しても  
長し続ける  
人材を育てる

## 人材育成制度

040 社

## 目標設定研修

098 回

## 評価者能力研修

567 回

## 昇格者選抜評価

160 回

人事・人材開発支援の

## 主な実績企業

アイシン・イーアイ株式会社  
 アイシン・エンジニアリング株式会社  
 アイシン化工株式会社  
 アイシン機工株式会社  
 アイシン軽金属株式会社  
 アイシン・コムクルーズ株式会社  
 株式会社アイシン・コラボ  
 アイシン精機株式会社  
 アイシン辰栄株式会社  
 アイシン高丘株式会社  
 NTN 株式会社  
 株式会社キャタラー  
 埼玉工業株式会社  
 株式会社ソミック石川  
 津田工業株式会社  
 株式会社デンソーエアシステムズ  
 株式会社デンソーセールス  
 デンソーテクノ株式会社  
 トヨタ自動車株式会社  
 株式会社豊田自動織機  
 浜名湖電装株式会社  
 浜名部品工業株式会社  
 豊生プレーキ工業株式会社  
 マブチモーター株式会社 他(50音順)

## 株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F  
 TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002  
 E-MAIL [info@synergy-power.co.jp](mailto:info@synergy-power.co.jp)

## 目次

- 6 | **巻頭言**  
中小企業施策委員会 石川伸一郎委員長(石川ガスケツ社長)
- 8 | **特集** **日欧の新たな経済連携協定が実現。  
自動車関税の完全撤廃**
- 12 | **寄稿**  
「自動走行に関する北海道の取組について」  
北海道経済部産業振興課主幹 上野修司氏
- 14 | **会員企業紹介**  
IPF (群馬県高崎市)
- 16 | **連載 DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.17**  
**今年度設備投資は6年連続の増加**  
日本政策投資銀行
- 18 | **支部活動レポート**  
中部支部視察報告 環境部会
- 20 | **北米事務所だより Vol.126**  
—「ジープが中国ブランドになる？」—
- 21 | **工業会業務レポート・スケジュール**
- 28 | **日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト**
- 31 | **指標・統計**

平成29年9月15日発行  
(隔月1回15日発行)

### ■発行所

一般社団法人  
日本自動車部品工業会  
〒108-0074  
東京都港区高輪1-16-15  
電話 03-3445-4212  
FAX 03-3447-5372

### ■編集

日刊自動車新聞社  
〒105-0012  
東京都港区芝大門1-10-11  
芝大門センタービル3階  
電話 03-5777-2351(代表)

### ■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

IATF16949セミナーは… [www.lapj.co.jp](http://www.lapj.co.jp) まで

ISO教育コンサルティング  
株式会社エルエーピー

# LAP

ISO

Lead Auditor Project Team

大好評! IATF16949規格 解説セミナー  
IATF16949 内部監査員セミナー  
AIAG、コアツール実践2日間セミナー



〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp

# 巻頭言

Introduction

## 『経済・事業環境の変化に タイムリーな施策で対応』



中小企業施策委員会  
委員長・石川 伸一郎

[石川ガasket株式会社 代表取締役社長]

会員の皆様、日頃より中小企業施策委員会の活動に御協力いただき、改めて御礼申し上げます。昨年はまさかと思うような事が次々と起こり、これが世界経済にどう波及していくのか非常に気になりましたが、現在までは微妙なバランスの結果なのではないでしょうか、世界経済はそこまで大きな波風はたたずに来ていると感じます。しかしこれは嵐の前の静けさであり、今後もこの状態が続くとは思えないと、多くの方々が感じている通りです。

自動車部品工業会会員の半数を占め、国の経済の土台を支えていると言っている中小企業は、経済全体の大きな流れの変化、事業環境の急変には、中小企業であるが故に自社のみの努力で対応していくには大変な困難があります。

当工業会としても各種公的な助成の情報、勉強会、講演会の開催など、中小企業会員の経営に資するよう、様々な施策をタイムリーに実施してまいります。

さて、中小企業施策委員会の活動の中でも重要なイベントの一つが技術展示商談会です。4輪、2輪メーカー各社で場所をお借りして、当工業会の主として中小企業会員が、自社の製品・技術等を展示し、完成車メーカーの皆様に見ていただき、説明をさせていただくという場を

設ける事業です。

平成16年のトヨタ自動車様での開催を皮切りに、平成28年のUDトラック様での開催で計15回、4輪、2輪の完成車メーカー様全社で開催いたしました。

通常では自社の技術・特徴を説明するチャンスがなかなか得られない中小企業会員の皆様に、アピールの場をご提供できた事は大変有意義であり好評でしたが、それでも多くの改善点はあります。年間1～2回の開催が精一杯なので、完成車メーカー様を一巡するのに10年余かかってしまっています。更には一日だけの開催なので、都合が付かず見に来られない方も多いと聞いております。また参加企業にとって遠隔地の会場ですと少なからず費用も掛かります。

このような点を踏まえ、昨年度からwebを使った仮想空間上での展示会実施の可能性について模索してまいりました。私たち自動車部品分野では、まだなじみはありませんが、異業種ではかなり浸透し始めてるとも聞きます。また昨今のIT技術の深化とネット利用の拡大から、遠からずこういう形態が広まって来るであろうと考えます。IDとパスワードによって、ある特定の方々だけに見ていただく事も可能だそうで、内容と対象を絞った展示

も出きる事になります。ただし、実物を見て、触れていただく事は出来ないので、自社技術を効果的にアピールするための資料作成が重要になります。自社製品の説明に適した資料作りには、かなりのトライアンドエラーが必要かと思っておりますので、色々と試してみる場としても活用していただけたらと思えます。なんとか年度内に一回目の仮想空間での展示会開催を実現すべく活動しておりますので、是非御協力、御参加をお願いします。

また、従来の実物による展示商談会を続けるかどうかは、今後の委員会等での議論によりますが、今後も続けるのであれば、この仮想空間での展示との連携を持たせたり、補い合ったりする事で、今まで以上に効果的なアピールの場として活用していただける様になればとも思います。

こうした中小企業会員向けの事業は、部品工業会の様々な事業の中でも重要な取り組みとして位置づけられています。これからも中小企業施策委員会の活動に、様々な御意見並びに御支援、御協力を御願い申し上げます。

## 特集

# 日欧の新たな経済連携協定が実現。 自動車関連税の完全撤廃へ

(日刊自動車新聞社)

日本と欧州連合（EU）が7月に経済連携協定（EPA）の締結で大枠合意した。EUが日本製の自動車部品にかけている関税は協定発効後に9割超で即時撤廃され、乗用車に対する10%の関税も8年目にゼロとなる。部品業界では欧州で日本車の競争力が高まることによる波及効果に期待が高まっている。一方で、域内で生産された部品を一定程度使えば完成品の関税をゼロにする原産地規則の自己証明制度が導入されるなど、各社には新たな対応が迫られる。

## TPPに先駆け、EUとの自由貿易が内定

2013年4月に開始した日EU・EPA交渉は4年以上の歳月を経て、大枠合意にこぎつけた。全世界の国内総生産（GDP）の約3割が該当するメガ自由貿易協定（FTA）だけに、交渉中または構想段階にあるFTA・EPAに与える影響も大きい。トランプ大統領のもと、保護貿易主義を掲げる米国はメキシコとカナダとの3国による北米自由貿易協定（NAFTA）の再交渉のテーブルについたが、日EU・EPAは自由貿易の重要性を改めて国際社会に示すものだ。

今回の大枠合意について、経済産業省時代に通商政策局でアジアFTA・EPA交渉

を担当したデロイトトーマツコンサルティングの羽生田慶介執行役員は「タイミング的に非常に良かった」と評価する。EUは交渉がうまく進展しないと途中で切り捨てることも珍しくなく、米国の環太平洋経済連携協定（TPP）離脱やフランスの大統領選挙など、今しかないというタイミングを逃さなかったからだ。今後は日本、EUとも19年の協定発効に向けて、大枠合意では詰め切れなかった事項の協議を終わらせることが最優先となる。日EU・EPA以外にも日本は（米国抜きの）TPP11、EUも南米南部共同市場（メルコスル）など、お互いに他のアジェンダを抱えている。

自動車業界は今回の大枠合意の内容を歓迎している。自動車部品の関税は9割超で



EPAはグローバルの部品メーカーにとって追い風だ

即時撤廃されることが決まった。現在、日本からEUに部品を輸出する場合、エンジン関連部品やランプは2・7%、変速機やエアバッグ、シートベルト、サスペンションは3~4.5%、軸受けは7.7~8%の関税がかかっている。発効時には品目ベースで91.5%、輸出額ベース（12年）では92.1%が即時撤廃となる。軸受けやシートベルトの一部、ディーゼルエンジン部品などは発効後も関税が残るが、4~7年かけて撤廃し、8年目には全品目で関税がゼロになる。年間300億円分の関税負担がなくなるだけに各社の経営に与えるインパクトは大きい。自動車部品の関税即時撤廃率は品目ベース、輸出ベースともTPPを上回り、EUと韓国が結んだFTAとほぼ同水準だ。

羽生田氏は「自動車部品で即時撤廃を取れて良かったが、ハードルは高くなかった」と指摘する。EUは韓国であれ、カナダであれ、これまでFTAの相手国とは100%近い自由化を続けてきた。日本相手でも基本は即時撤廃の線が強く、自動車部品は楽観視されていた品目の一つだった。ただ、韓国やカナダと違って日本はEUに多くの部品を輸出しているだけに、EUの中でも反

対意見があったと推測されるが、今回の日EU・EPA交渉も「通商協定の中で部品の関税を引き下げないことはあまりない」（羽生田氏）という世界のスタンダードに沿った形で着地した。関税の撤廃は、EU側にとっても部品の輸入と工場での組立作業を増やし、雇用を創出する。

一方、完成車は7年で撤廃となる。羽生田氏は「もう少し早いほうが良かったが、（EU側が要望していた）10年にはならず、ちょうど良い落としどころとなった」と感想を口にする。これによるインパクトは短期的に現地生産がしやすくなることだ。部品の関税が即時撤廃されれば、自動車メーカーとティア1（一次部品メーカー）の視点でいうと、欧州で現地生産しやすくなる。日本で生産している高度な部品を低コストで輸入できる。7年後に完成車の関税が撤廃されれば選択肢も増える。経営的なインパクトからいうと、選択肢の多さはコストダウンにつながる。

一般的に、経営コストがアップする要因は工場の稼働率が低下することだ。現在は



デロイトトーマツコンサルティング  
羽生田慶介執行役員



関税撤廃により欧州向けの輸出拡大が期待できる

日本からEUへの輸出は関税がかかるため、日本から部品を送らずに現地生産しないとコスト的には合わない。これが日本から送っても、EUで生産してもいいとなると、日本とEU双方の工場で安定稼働が可能になる。両方を合わせて日本とEUの需要を満たせばよい。為替レートも含めた稼働調整ができればコストに大きく効いてくる。柔軟な生産調整は設備投資額の抑制につながる。

これ以外にも日EU・EPA協定のメリットは多い。稼働調整によるトータルコストダウンに加え、(米国での生産を増やせという) トランプショックにも対応できる可能性がある。仮に企業が米国での増産を迫られた場合、しわ寄せがくる第一候補はメキシコだ。羽生田氏は「メキシコを生贄にして、レイオフ(一時解雇)し、トランプショックを終わらせる考え方もあるが、自動車メーカーの北米担当役員はたいてい米国とメキシコの両方を見ており、自分の担当地域を痛めたくないはず」とメキシコの有効活用を提案する。

メキシコとEUの間には00年からFTAが

存在するが、現状ではメキシコからEUにモノがあまり輸出されていない。一方、最近EUが不安定なこともあり、欧州での設備投資を控え、メキシコからの調達にシフトする考え方も広がっている。大手のティア1はメキシコからEUへの輸出を真剣に検討し始めた。

“メキシコからEU”というルートに、“日本からEU”という選択肢が加わる。ただ、選択肢の拡大は経営の上手、下手の差が明確になることも意味する。羽生田氏は「関税削減の実務も含めた通商インテリジェンスに対して求められるレベルは一気に高まる」と予想する。

今後、企業に必要なのは世の中のFTAの動向について複数のシナリオを準備しておくことだ。日EU・EPA以外にも、TPP11が形になるのか、TPPに米国が復帰するのか、その前にタイがTPPに入るのか、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)はどの順番でできるのか、など多面的に注視しなければならない。

不確実な世界情勢だけに「所有から利用へ」という考え方も大事になる。大型の設

備投資や人の雇用ではなく、生産の外部委託や今後は余剰の可能性のあるメキシコからの調達など、固定費から変動費へ移すという柔軟な対応がカギを握りそうだ。

FTAの「使い漏れ」の解消も課題となる。これまで日本企業にとってのFTAは、東南アジア諸国連合（ASEAN）とのFTAとNAFTAぐらいだった。今後EUが加われば使い漏れは絶対に許されなくなる。関税は協定が発効されたからといって自動的にコストが下がるわけではない。原産地証明書を取得して初めてコストが下がる。羽生田氏は「使い漏れをなくすだけで利益が向上する」と強調する。

日EU・EPAでは原産地規則の証明において自己証明制度が導入されることが決まった。企業はFTA活用によりメリットが増大するが、同時にコンプライアンスリスクも抱えることになる。

これまでは原産地規則の証明を商工会議所などの第三者機関が行っていたが、日EU・EPAからは企業による完全な自己証明に切り替わる。例え悪意がなくても、原産性の計算の間違いや書類の不備があった場合は企業にリスクが降りかかる。実際に、EUとFTAを結んでいる韓国は毎年、何千件もの検認を受けている。

本来、自己証明制度は手続きのためのコストや時間を削減できるほか、原産地証明書の発給機関に原価や金型などの情報を開示する必要もなく、機密保持の観点からもメリットが多い。これまで日本が第三者機関による証明だったのは、FTA相手国の大半が発展途上国で、相互に信頼できる発給機関を据える必要があったためだ。今回

のような先進国とのFTAでは企業にコンプライアンスリスクを持たせようという流れがある。

自動車部品業界は、このコンプライアンスリスクをどうとらえるべきか。羽生田氏は「自社のためではなく、自動車メーカーから要求されることが確実に増えると認識するべきだ」と説く。

自動車メーカーやティア1がEU市場に製品を投入する場合に、原産地証明書を出すのが、その手前でサプライヤー証明書が必要になる。今後、コンプライアンスリスクは自動車メーカーやティア1が持つことになるため、サプライヤー証明書に対しては高い精度が求められるようになるのは必至だ。システム投資や、FTAを熟知する担当者の配置も必要になるかもしれない。日EU・EPAの自己証明制度に基づく原産地証明のやり取りに、適切に対応できないサプライヤーは自動車メーカーやティア1から取引を後回しにされてしまう可能性もある。

今後は単に良い製品をつくっているだけでは生き残れない。ただ、羽生田氏は「逆にFTA対応が完ぺきなら、同じ品質を維持している限り、多少コストが高くても買ってもらえる」と活用次第では競争力を高める手段になる可能性を示唆する。まずは、自動車メーカーからの要求に、どういうフローで対応するかなど、社内のルールづくりから取り組むことが重要となりそうだ。

# 自動走行に関する 北海道の取組について

北海道経済部産業振興課主幹  
上野 修司

## 1. 現況

自動走行は、「日本再興戦略」、「日本IT S 構想・ロードマップ」など、国の成長戦略に位置づけられ、官民挙げて実用化に向けた取組が進められています。

一方、北海道では、全国最多となる28のテストコースが集積し、広大な土地や寒冷な気候を活かした多様な実証試験が行われています。

道では、こうした国内の動きや本道のポテンシャルを踏まえ、自動車産業の国際競争力の維持・強化に貢献するべく、自動走行の取組を積極的に支援・推進することとしています。

## 2. 「ワンストップ窓口」での取組

昨年6月、道は、企業ニーズを踏まえ、企業等の自動走行の取組促進に向けた環境を整備するため、公道実証試験に関する事前連絡先の一本化を図る「ワンストップ窓口」を道産業振興課に設置しました。

窓口を設置して以来、本年6月末現在で38件の多様な相談が寄せられ、内3者による公道実証試験が延べ6期にわたり実施されています。また最近では、林道や空き地などでの走行試験に係る問い合わせが多く寄せられ、道は林道等の活用による支援を行っているほか、今後は、道道の有効活用なども検討していくこととしています。

## 3. 今年度の主な取組

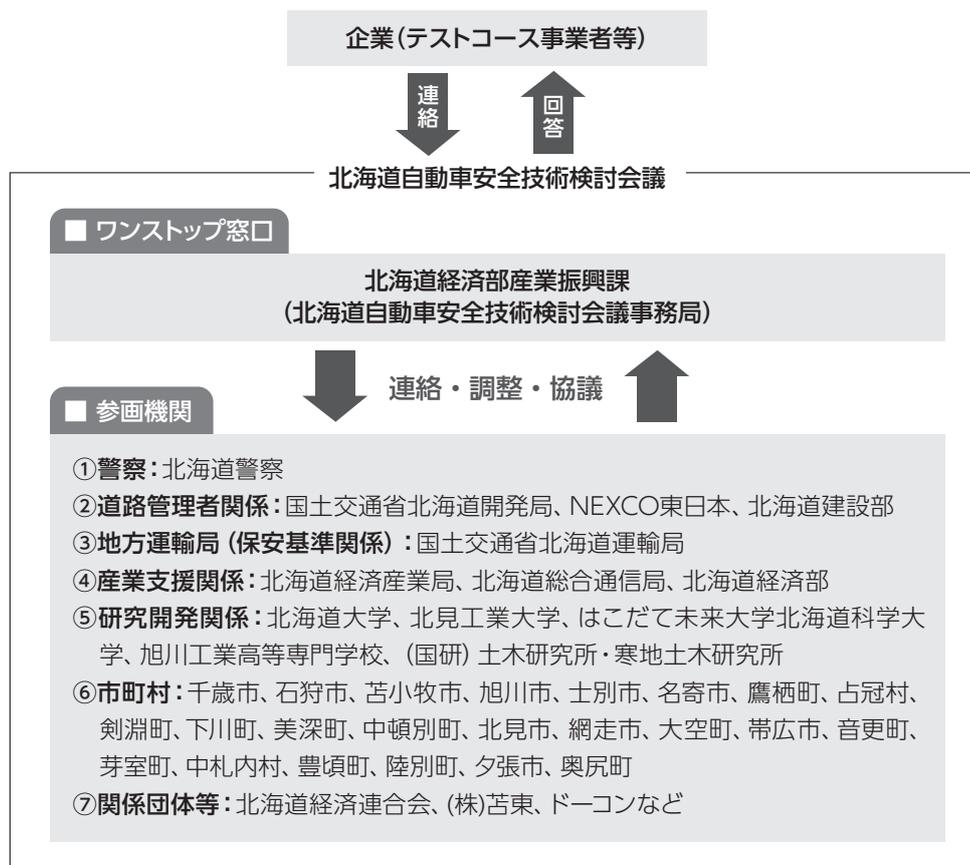
前述の窓口設置のほか、公道試験の適地（道

路情報）に関する情報提供への企業ニーズが高いことから、道では、こうしたニーズに対応するため、自動車関連企業のヒアリングにより調査項目を絞り込み、テストコースの集積地周辺の公道を中心に調査を行うこととしています。具体的には、「明暗差の著しい場所」や「道路形状が特殊な場所」など適地調査を行い、マップ及びデータベースに取りまとめるとともに、複数の箇所を含むモデルコースも検討する予定です。

これら取りまとめ結果については、道内にテストコースを有する企業に無償で提供するほか、日本自動車部品工業会の会員企業様にも、ご希望があれば無償で提供させていただく予定です。これら調査結果や前述の「ワンストップ窓口」の活用による公道実証試験の一層の円滑化に加え、苫小牧東部地域への寒冷地対応の試験ができる公設テストコースの整備についても国に提案しているところですので、道外の企業各社様におかれましても、自動車の実証フィールドとしての北海道に目を向けていただければと考えております。

## 4. 道内で進む国の社会実証の取組

本年7月末、国土交通省の「中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス」の実施地域のひとつとして本道の大樹町が選定されました。今秋以降、路線バスの一部を自動走行バスに切り替えた試験走行を実施し、利便性向上やコスト削減などの効果検証が進められ



URL : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/ssg/jiduosoukou.htm>

る予定です。

また、道内の産学が参画する企業コンソーシアムが経済産業省の補助事業の採択を受け、雪道走行を可能とする自動走行技術の研究開発を進めることとしています。

道としては、こうした国の実証事業の取組とも密接に連携し取り組むこととしています。

## 5. 自動走行の取組の全道展開に向けて

自動走行は、現在のところ実証段階にありますが、道としては、将来的な社会実装にスムーズに対応していくべく、今のうちから地域交通課題への対処やビジネス活用のアイデアを掘り起こし、その具体化検証を進めておくことが重要であると考えています。

このため道では、本年6月、道内市町村から提案を募集し、6市町村からの提案を取りまと

めたほか、今後、企業からのビジネス活用の提案も幅広く募集し、これらを自動走行関連企業に提案し、関係者連携の下で、有望提案の具体化に取り組み、自動走行の取組を全道に拡大していくこととしています。

## 6. むすび

本道は、交通事故死亡者数が多く、広域分散型で車依存が高い一方、少子高齢化の進展により交通弱者が増加するなど、社会課題が顕著な地域であり、だからこそ、自動走行車両や高度運転支援技術の導入による効能は高いと考えられます。

今後とも自動走行の取組に貢献して参りたいと考えておりますので、日本自動車部品工業会会員企業様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 会員企業紹介 IPF 株式会社

# 製品の検査体制万全に 高品質が最大の武器

働きがいのある職場づくりを目指す

市川喜一郎社長



### 会社プロフィール



IPF本社

本社・本社工場 〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町2656  
TEL.027-346-3311 FAX.027-347-3394  
資本金 2500万円  
従業員 80人(2017年7月末現在)  
生産拠点 本社工場  
代表者 代表取締役社長 市川喜一郎

### 自社ブランド「IPF」を展開

1946年9月に群馬県高崎市で創業者の市川喜代松氏が小部品のプレス加工を開始し、53年12月に市川プレス工業を設立した。90年9月に変更した現社名のIPFは市川プレス工業(ファクトリー)の頭文字を取ったものだ。プレス加工の技術を生かし、大手自動車部品メーカーからフォグランプの金属製の反射鏡などを受託生産していたが、事業拡大を目指して当時の市川悟社長(現会長)が自社ブランド「IPF」を立ち上げた。現在はフォグランプやヘッドランプなどの自動車用照明器具向けを中心に、LEDバルブやLEDランプなどの照明部品、ランプステーやグリルガードといった内外装品を手がける。自動車メーカーの純正用品(OEM)の供給をはじめ、IPFブランドの市販品は大手カー用品店に並ぶほか、世界各国にも輸出している。売上高に占める構成比はOEMと国内市販品が40%ずつで、輸出が20%。国内用品市場は縮小傾向だが、「グローバルでは自動車の販売増に

伴い用品も需要が見込める」(市川喜一郎社長)ため、オリジナル商品の輸出を強化する。現在の輸出先の中心はカンガルーバーに大型フォグランプを装着するニーズが根強いオーストラリアだが、今後は高品質な日本製品を求めるインドや東南アジアなどの市場も開拓する方針だ。

### 品質検査へのこだわり

海外でも自動車用ランプは明るくて長寿命、消費電力も少ないLED化が進んでいる。IPFでは現在、ハロゲンとLEDが同じ販売比率だが、市川社長は「今後はLEDが増える」と予想する。同社の国内市販品はハロゲン電球からLEDに交換するLEDバルブが売れ筋だ。国内のLED市場には安価な中国製品も流入しているが、「しっかり品質を評価できる設備を持つ」(市川社長)強みを生かして差別化を図る。配光検査室を備えるほか、耐水や振動などの試験と評価も自社で行う。ノイズを発生するLEDで必要となる電磁両立



主力製品のLEDヘッドランプバルブ・341HLB



輸出先は大型ヘッドランプの需要が旺盛なオーストラリアが中心



毎年11月に開催する  
IPFファン感謝デー

性(EMC)の試験は外部委託で対応するなど、万全の品質検査体制を敷く。また、光源がLEDに変化することを見越し、開発部門で電子系の人材を増やした。市川社長は「早い段階で積極的に採用したことが、高品質のランプの提供につながっている」と自信を見せる。LEDのヘッドランプやフォグランプの標準装備が進み、今後はLEDへの交換需要の減少も予想されるが、国内市販市場では新たな商品への引き合いも強まっている。フロントグリルやバンパーに後付けするデイライトはその一つだ。

## 余念がないファンづくり

IPFは67年4月に群馬県中小企業合理化モデル工場の指定を受けた。特徴的な事業内容と好業績の企業が対象で、現在は26社が名を連ねる。この指定はIPFの信用につながって

いる。2016年4月に4代目トップに就任した喜一郎社長。16年度は市販とOEMともに好調だったLED効果から、売上高はここ数年で最高の25億円を記録した。ただ、市川社長は「規模を大きくするつもりはない。今の体制で無駄を省く」と身の丈に合った経営を貫く方針だ。「社員にとって働きがいのある会社になりたい。社員と同じ目線でモチベーションアップに取り組む」ことに全力を注ぐ。一般ユーザーに対する情報発信にも力を入れている。東京モーターショーや東京オートサロンには毎回出展し、最近ではSNSを通じてIPFブランドの認知度向上に努めている。毎年11月に本社工場で開催する「IPFファン感謝デー」はユーザーが心待ちにする恒例行事となった。顧客と直接触れ合う機会を大切に考える企業姿勢は多くのIPFファンを生み出している。

# 今年度設備投資は生産効率化や インバウンド対応の投資が広がり 6年連続増加の計画

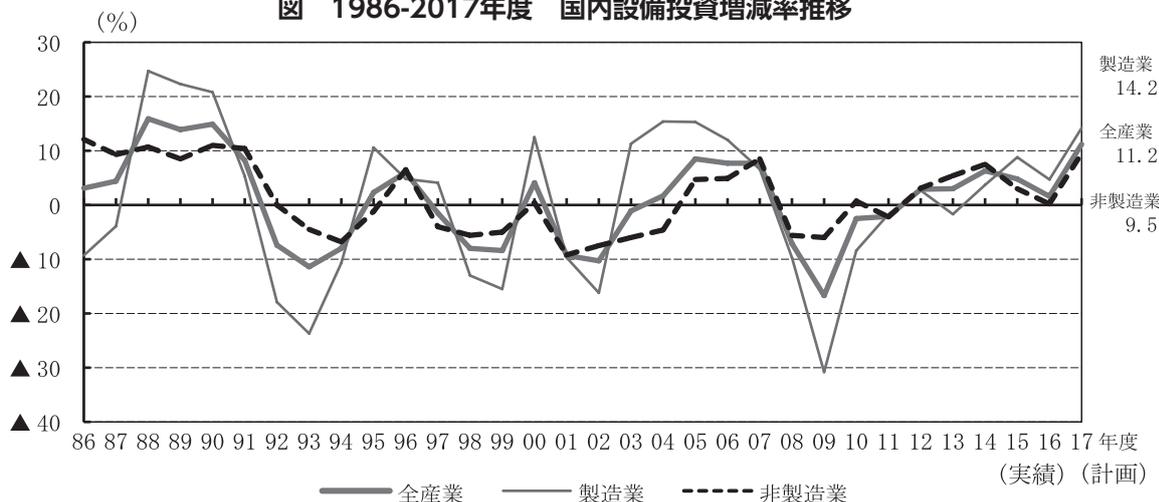
日本政策投資銀行が毎年実施している大企業（資本金10億円以上）の設備投資計画調査によると、2017年度の国内設備投資額は、製造業、非製造業ともに増加し、全産業で前年比11.2%増と6年連続の増加となる計画が示された。

業種別では、製造業は前年比14.2%増と4年連続で増加する計画となっている。ウェイトの大きい輸送用機械は前年までのモデルチェンジのための投資が一巡し、同7.3%増と製造業の平均を下回る伸びにとどまるものの、化学（同19.8%増）や非鉄金属（同57.1%増）で自動車や電子・電池向けの部材、素材の生産や研究開発のための投資が増加する見込みである。また一般機械では、航空機や自動車、産業用ロボット向けの能力増強や生産効率化への取り組みの投資が増加し、同22.1%増の計画となっている。なお本調査では、予定している設備投資の金額とあわせて、各企業に設備投資を行う動機につ

いても調査を行っている。製造業の今年度の投資動機をみると、設備投資全体に対し「能力増強」を目的とする投資のウェイトは21.4%と、現項目で調査を開始した1986年度以降で最低となる一方、「維持・補修」目的の投資のウェイトは28.1%と、過去最高となる見込みである。「維持・補修」については、老朽化設備を新しい設備に更新することで、生産性の向上につながるものもあるため、上述した生産効率化に向けた投資等もこちらの投資動機に含まれると考えられる。

他方、非製造業の今年度の設備投資は前年比9.5%増と6年連続で増加する計画となっている。業種別にみると、まず運輸は空港施設整備の投資が増加し、同13.8%増の計画となっている。また不動産（同23.3%増）の都心部大型再開発案件、サービス（同28.4%増）のホテルやテーマパークなど、引き続き東京オリンピック・

図 1986-2017年度 国内設備投資増減率推移



(備考) 1. 日本政策投資銀行 (2017) より作成 2. 前年度との共通回答会社による増減率 3. 2016 年度までは実績値

## 日本政策投資銀行「2016・2017・2018年度 設備投資計画調査」概要

調査目的	わが国産業界の設備投資の基本的動向を把握することを目的に1956年より実施。
設備投資の範囲	自社の有形固定資産に対する国内投資(ただし、不動産業における分譲用を除く)。原則として、建設仮勘定を含む有形固定資産の新規計上額(売却、減失、減価償却を控除せず。工事ベース)。
調査方法	アンケート方式(調査票送付。必要に応じ電話聞き取りなどにより補足)。
調査の対象企業	資本金10億円以上の民間法人企業を対象(ただし、金融保険業などを除く)。
調査時期	2017年6月26日(月)を期日として実施。
回答状況	対象会社数3,127社のうち*有効回答会社数2,033社(製造業982社、非製造業1,051社)、回答率65.0% ※国内設備投資の2016、17年度共通回答会社数

パラリンピックも見据えたインバウンド(訪日外国人)対応の投資が続くとみられる。卸売・小売では、コンビニエンスストア等で省力化のための設備導入の投資が増加し、同13.1%増の計画となっている。

以上、みてきたように、今年度の設備投資計画は製造業における生産効率化や非製造業のインバウンド対応投資を中心に堅調な計画となっている。ただし、当調査は例年計画から実績にかけて下方修正される統計上のクセが観測されており、これを踏まえた最終的な着地については概ね一桁台前半の伸びになることが予想されるが、先行きも景気の緩やかな回復が想定される中、設備投資の増加基調には変化はないと考えられる。

IMF(国際通貨基金)が7月に公表した最新の世界経済見通しでは、2017年の世界全体の成長率は前年比3.5%増と、前年(同3.2%増)から緩やかに持ち直す見込みである。日本についても、中国など外需の持ち直しを背景に輸出が牽引役となり、17年4~6月期まで6四半期連続でプラス成長を達成している。先行きについても、輸出の増加に加え、雇用・所得環境の改善を背景とした消費の緩やかな回復が見込まれ、1%台の成長が続くとの見方が多い。こうした景気の緩やかな回復が企業の景況感改善につながり、実際の投資実行の意志決定を後押し

することになる。

他方、米FRB(連邦準備制度理事会)を始め、各国中銀がこれまでの緩和的な金融政策を引き締め方向に転換しつつあり、こうした金融政策正常化の動きは景気過熱抑制につながる一方、拙速な金融環境引き締めは世界経済全体の成長を腰折れさせるリスクも内包する。またその他にもトランプ大統領の保護主義政策の推進、過剰債務を抱える中国経済の急減速、英国のEU離脱交渉の決裂等、足元で海外経済の下振れリスクは山積しており、こうしたリスクが顕在化した場合には、日本企業の投資マインドが腰折れし、実際の設備投資が投資計画を大きく下回る可能性があり、留意が必要となろう。

## 【参考文献】

日本政策投資銀行(2017)

「2016・2017・2018年度 設備投資計画調査」  
(<http://www.dbj.jp/investigate/equip/national/detail.html>)

IMF(2017) "World Economic Outlook Update, July 2017"

(<http://www.imf.org/en/Publications/WEO/Issues/2017/07/07/world-economic-outlook-update-july-2017>)

# 中部支部 環境部会主催 「(株)エフテック亀山事業所」視察報告

自動車部品工業会 中部支部

環境部会 委員 小島 令 (記)

(株)東海理化 施設環境部 環境推進室

## 1. 日時

2017年 7月20日(木) 13:00 ~ 15:00

## 2. 視察先

株式会社エフテック 亀山事業所

## 3. 面談者

那須所長・前田課長・上野ブロックリーダー

## 4. 参加者

支部会員企業 22名 (19社)

## 5. 訪問の狙い

(株)エフテックは、国内の自動車部品メーカーとして初めてISO50001の認証を取得、独自のエネルギーマネジメントシステム（以下、EnMS）を構築し、グローバルに展開することで、大きな省エネ効果を出している。グローバルマザー工場としてグループ全体を牽引し、積極的な省エネ活動に取り組む亀山事業所を視察し、会員各社の省エネ活動に役立てていく。

## 6. 亀山事業所の概要

(株)エフテックは1947年に操業を開始。四輪車及び二輪車の足廻り複合機能部品メーカーとして、北中米・アジア・欧州とグローバルに事業を展開。

亀山事業所ではプレス／溶接／塗装／組立の一貫生産体制により、マウント部品・サスペンション部品・コントロール部品を製造。2009年に亀山工場へエネルギーモニターを導入し、徹底した非稼働時のエネルギーロス低減活動に取り組む。更なるエネルギーマネジメントの進化を目指し、2013年には他社に先駆けISO50001の認証を取得し、グローバルマザー工場として、EnMSをグループ全体に展開している。

## 7. 視察スケジュール

- (1) 事業所紹介・取組み説明 (2) 施設見学
- (3) 質疑応答

## 8. 取組み内容

### (1) ISO50001の認証取得

非稼働時のエネルギーロス低減活動を通じて、エネルギー使用量の「見える化」についての重要性を認識し、亀山工場へエネルギーモニターを導入したが、運用面で行き詰っていた。また、2020年グローバル環境目標の達成に向けてスタートさせた世界環境会議や海外グループ拠点の現地担当者への指導を行う中で、地域による省エネ知識やスキルのギャップが分かり、ISO14001のみに頼ったパフォーマンスの改善に限界を感じていたなど、ISO50001の認証取得に至った経緯について説明があった。認証の取得は手段であり、目的はエネルギーコストの削減であることが強く意識されており、やらされ感のない真に現場改善に繋がるためのシステムが構築されていった。

### (2) ベンチマーク拠点の選定とグローバル展開

亀山事業所で構築したEnMSをベースとして、グループ共通のマネジメントシステムを発行し、海外拠点も含めたグローバルでのEnMS構築が進められている。

#### 1) エネルギーレビューの実施

EnMSを成功させるポイントとして、エフテックにおける“エネルギーレビュー＝省エネ診断”の仕組みについて説明があった。有効性の高い診断が行えるよう診断スキルを身に付けるための育成プログラムが整備されており、講習で用いるテキストは日本語のみでなく中国語や英語版

**亀山事業所における改善事例** Ritech

**溶接工程エア圧の減圧化(亀山)** ✓ 限界値や設定条件を疑う

**STEP 1** : 溶接工程のエア圧は、工程品質管理表で決められている。  
 設定値 : 0.55 MPa±0.05MPa 実績値 : 0.55MPa   
 → 誰もが当たり前、品質の取り決めだから変更不可と思いつている。

**STEP 2** : まずは、設定値の下限で品質影響を確認！  
 設定値 : 0.55MPa ±0.05MPa 実績値 : 0.50MPa   
 → 品質影響なし！

**STEP 3** : 設定値を下回ったらどうなる？エア圧を下げて品質影響を確認！  
 設定値 : 0.55MPa ±0.05MPa 実績値 : 0.30MPa   
 → 0.30MPaでクランプエラー発生。0.35MPaでは品質影響なし！

**STEP 4** : 工程品質管理表を改訂し、エア圧の減圧化を実行！  
 設定値 : 0.40MPa ±0.05MPa 実績値 : 0.35MPa 

**Point!** **投資“0”** 28,472Kwh/年 削減

今までの省エネは、品質影響が懸念されるところまであまり踏み込んでいませんでしたが、品質影響がある内容についても診断報告書の中で影響評価し取り組めるようになりました。

Copyright(c)2017 F-TECH INC. All Rights Reserved.

**海外拠点における改善事例** Ritech

**溶接工程エア圧の減圧化(北米、中国)** 日本施策の水平展開 

北米、中国(FTZ)でも、日本同様に品質影響を確認しつつ設定値内でエア圧の最適化を行いました。今後は、設定値の見直しを含め展開予定です。また、中国(FTW)では、エア配管のルーパ化等のインフラ側を最初に最適化(安定)させてから使用側での削減に取り組み予定です。

**Point!** **投資“0”** 電気 66,177Kwh/年 削減 (北米+中国)

設備の状況やインフラ状況(配管、口径等)に応じて各工程毎に最適値を設定。

**ボイラー空気比改善(中国)** **投資“0”** 

中国では、担当者が空気比自体知らない状況でしたが、エネルギー診断基礎講習で空気比について説明を実施しました。  
 現状は、空気比が1.89とEnMSで規定された空気比1.25~1.40を外れており、メーカーと調整の上、エネルギー削減を図りました。

**Point!** **投資“0”** 天然ガス 6,991m3/年 削減

国や地域によって、環境担当の省エネスキルに差が見受けられましたが、ISO50001展開によって省エネスキルの底上げが出来ました。

Copyright(c)2017 F-TECH INC. All Rights Reserved.

も用意するなど、グローバル展開を意識した仕組みとなっている。

2) 海外ベンチマーク拠点によるEnMSの展開  
 海外展開を円滑に進めるために、各地域におけるベンチマーク拠点が選定され、日本のEnMS専門チームによる導入支援が行われている。支援内容には前述の講習テキストを用いた人材育成も含んでおり、拠点毎に自立してエネルギーレビューが実施でき、確実に地域に展開できるスキルが身に付くまでの手厚いフォロー体制が整えられている。

3) 各拠点での自立した省エネ活動  
 エネルギー管理標準のグローバル展開

(3) 亀山事業所の取組み事例

プレス工場、溶接・組立工場、塗装工場の省エネ取組み事例について、現地・現物にて紹介があった。エアの低圧化やパルスブローによるエアの削減など、個々の事例については従来からある省エネ手法であるが、エネルギー使用量を見える化することで、余すことなく対策内容が水平展開され、大きな成果に繋がっている。特に、エアの流量計が工場内の通路から目に付きやすい所に多数取り付けられているのが印象的であった。また、環境かわら版や省エネ調査票など、従業員の環境意識を向上する為の啓発活動にも注力されている。

9. 所感

今回、EnMSを中心とした省エネ活動を紹介頂き、ISO50001に対する理解が深まると共に、その必要性についての認識が改められた。エネルギー使用量を見える化するだけではなく、診断から改善まで、エネルギーレビューを中心としたPDCAの仕組みを標準化し、海外でも同水準で省エネを進め、大きな成果に繋がることが期待できる。目的であるエネルギーコスト削減のために、手段としてISO50001に取り組むという意義を関係者全員が理解し共有できていると実感した。

また、海外展開のためにベンチマーク拠点を選定し、そこから各拠点へ浸透させるエネルギー管理標準自体を共通文書化し、マネジメントシステムに織込むなど、展開方法についても参考になる点が多くあった。グローバルでのCO2低減の必要性が増す中、自社の取組みにも役立てていきたい。

最後に、今回の視察への対応に快諾いただきました(株)エフテック亀山事業所の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



# 「ジープが中国ブランドになる？」

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

米国自動車市場では販売のピークが過ぎ、乗用車の販売は低迷が続く中でピックアップ、SUV、クロスオーバーなどの高人気がかろうじて販売の急減速を防いでいます。各社ともにこれら「売れ筋」の車種の追加、増産にやっきになっています。

そんな中で、SUVの代名詞と言っても良いジープ・ブランドがフィアット・クライスラー (FCA) から分社され売却されるかもしれないというニュースが飛び込んできました。ジープの分社化というのは初めて流れるニュースではありませんが、今回話題となったのは買収候補として名乗りを上げたのが中国最大の私有自動車メーカー長城汽車だということです。

自動車新興国のメーカーが伝統的な自動車メーカーを買収するというのには良い前例があります。スウェーデンのボルボはその乗用車部門が中国の吉利汽車に、英国のジャガー・ランド・ローバーはインドのタタ・グループにそれぞれ買収された後見事に再建され成長を遂げました。新興国企業ではありませんがフランスのルノーと日産自動車も別な成功例といえるでしょう。

ジープ売却話には次のような背景があります。(1) FCAが新モデルを繰り返し生みだしながら新時代の電気自動車、自動運転車などの技術開発に投資する力に不足していて外からの資金注入が不可欠であること、(2) しかしジープはガソリン車、SUV人気の高さ、だけでなくブランドが持つ力で販売を増やす力を持っていること、そして近年はモデル・ラインアップも充足されて販売大幅増を達成していること、(3) 中国やインドなどの

自動車メーカーは世界一付加価値の高いクルマを売れる米国市場に参入したがっているが自らのブランドではまだ無理なのを知っていて、既存企業の買収によってそれを可能にできると既に盛んな自動車部品サプライヤーの買収などで証明済みであること、などです。中国に限らずジープの買収に興味を示す企業は他にもいることでしょう。もちろん彼らが欲しがるのはジープだけです。FCAではありません。

確かにフィアットの力を得てジープは以前より格段に良いブランドに成長しました。その価値も単に米国を代表する伝統的なブランドという以上に高いものになっています。だが、私はジープが売却されることに不安を感じています。それは米国政府や議会が税金を投入して再生した米国の自動車メーカーが外国企業に買収されることを黙って見ていないだろうという心配ではありません。そんなことはすでに電気自動車のフィスカーやバッテリーのA123、そして日産の米国バッテリー事業で起こってしまっています。心配なのはジープがボルボやジャガー・ランド・ローバーになれないかもしれないということです。前例として挙げたこれらの自動車会社は中国やインドの新興企業に買収された後、むしろスウェーデンと英国の自動車メーカーとしての実力をかつて米国企業の傘下にあったときよりずっと強く発揮して成功しました。それはつまり彼らに真の実力があったということです。ジープに果たしてその力があるだろうか、というのが私の心配するところです。

&lt;完&gt;

# 工業会業務レポート

## 委員会活動

### 総務部

#### ●業務報告 [6/16～8/15]

- 7月21日 正副会長等打合せ会、理事懇談会 政策委員の委嘱、主要委員会委員の変更、各委員長報告他 ホテルモントレ京都
- 8月4日 政策委員会と自動車総連との懇談会 両団体報告事項、意見交換等 芝パークホテル

#### ●行事予定 [9/16～11/15]

- 9月16日 編集企画会議 JAPIA NEWS編集会議 部品会館
- 10月19日 正副会長等打合せ会、理事会 平成29年度上半期事業報告、決算等 八芳園
- 10月20日 広報部会 JAPIA NEWS編集方針等 ニッパツ

### 業務部

#### ●業務報告 [6/16～8/15]

- 6月27日 調達・生産部会 ・経産省「型管理研究会」の最終取りまとめ案（アクションプラン案）の説明と意見交換を行った。・会員会社の自主行動計画に基づく取組み状況と会員会社への支援活動について検討を行った。 部品会館
- 7月12日 経営調査部会 講演会（名古屋）自動車市場の展望等に関する講演会を名古屋で開催した。テーマ：「自動車業界～業績動向と今後の展望 2017年夏」講師：シティグループ証券(株) 株式調査部 ディレクター 吉田有史 様 名古屋栄ビル
- 7月13日 経営調査部会 講演会（東京）自動車市場の展望等に関する講演会を東京で開催した。テーマ：「自動車業界～業績動向と今後の展望 2017年夏」講師：シティグループ証券(株) 株式調査部 ディレクター 吉田有史 様 機械振興会館
- 7月25日 コンプライアンスWG、講演会 ・コンプライアンスWG発足の主旨説明及び活動内容についての意見交換を行った。・「米国独禁法、コンプライアンス」についての講演会及び意見交換を行った。テーマ：米国独禁法、コンプライアンス 講師：Onimura Law Corporation 弁護士 鬼村成人 様 部品会館
- 7月28日 旧型補給部品WG ・経済省 型管理研究会のとりまとめ（アクションプラン）について説明及び意見交換を行った。また、WGの活動について検討を行った。 部品会館
- 8月1日 人財・労務部会 ・経団連「長時間労働につながる商慣行の是正に向けた共同宣言」賛同依頼への対応について検討を行った。・働き方改革への経団連の取組みについての説明及び意見交換を行った。テーマ：時間外労働の上限規制と働き方改革に向けた経団連の活動 講師：(一社)日本経済団体連合会 労働法制本部 総括主幹 鈴木重也様 部品会館

- 8月4日 中小企業施策委員会 ・仮想展示会の準備状況について説明と今後の進め方について検討を行った。・取引適正化の取組み状況（型管理に関するアクションプラン他）について説明を行った。 芝パークホテル

#### ●行事予定 [9/16～11/15]

- 9月16日 BIKE LOVE FORUM in 群馬・前橋 前橋テルサ
- 9月26日 中小企業施策委員会 生産性・付加価値向上等支援活動（第1回）(株)ジェイテクト 刈谷工場
- 9月29日 総務委員会工場見学会 コマツ(株) 栗津工場
- 10月4日 BCP（事業継続計画）演習（東京） 損保ジャパン 日本興亜（株）本社ビル
- 10月13日 BCP（事業継続計画）演習（群馬） 太田商工会議所
- 10月17日 中小企業施策委員会 生産性・付加価値向上等支援活動（第2回）(株)ジェイテクト 刈谷工場
- 10月18日 BCP（事業継続計画）演習（広島） 広島興銀ビル
- 10月19日 BCP（事業継続計画）演習（大阪） 損保ジャパン 日本興亜肥後橋ビル
- 10月27日 BCP（事業継続計画）演習（浜松） 元城町共同ビル
- 11月14日 補修部品用品委員会 施設見学会 極東開発工業(株) 三木工場
- 11月15日 BCP（事業継続計画）演習（名古屋） 損保ジャパン 日本興亜名古屋ビル

### 国際部

#### ●業務報告 [6/16～8/15]

- 7月7日 国際委員会 1.最近の情勢について 2.本年度事業の進捗 3.NAFTA研究会 みずほ銀行 産業調査部 部品会館
- 8月3日 海外赴任前講習会「中国 上海等沿岸地域」 1.中国における安全対策 2.中国の医療事情・準備とリスク 3.質疑応答 部品会館
- 8月4日 知的財産権部会 1.関係官庁からの知財関連情報報告 2.知財戦略についての講演 マツダ株式会社 知的財産部長 白髪 信一氏 3.2017年度部会事業検討 部品会館

#### ●行事予定 [9/16～11/15]

- 9月29日 初級～中級者向け知的財産講座 1.知財権利化 2.海外進出全般 3.契約 4.技術流出防止 5.その他 講師 独)工業所有権情報・研修館 海外知的財産プロデューサー 久永 道夫氏 名古屋栄ビル
- 10月5日 国際委員会 1.最近の情勢について 2.本年度事業の進捗 3.研究会 部品会館
- 10月13日 職務発明規定改正講演会 2016年4月の特許法改正に伴う会員各社の職務発明規定改正につきアンケートを実施。その結果評価を専門弁護士が解説。 部品会館
- 10月27日 初級～中級者向け知的財産講座 1.知財権利化 2.海外進出全般 3.契約 4.技術流出防止 5.その他 講師 独)工業所有権情報・研修館 海外知的財

産プロデューサー 久永 道夫氏 大阪国民會館  
11月10日 知的財産権部会 1.関係官庁からの知財関連情報  
報告 2.知財戦略についての講演（講師未定）  
3.2017年度部会事業検討 部品会館

## 関東支部

### ●業務報告〔6/16～8/15〕

6月30日 海外視察（ドイツ）事前勉強会 講演①「ドイツの政治経済概況」講師：日本貿易振興機構 海外調査部欧州ロシアCIS課課長代理 鷺澤 純様 講演②「シェフラー・ジャパンが取組む日欧技術協業のものづくり」講師：シェフラー・ジャパン(株) マネージング・ディレクター兼代表取締役 自動車事業部プレジデント 四元 伸三様 経団連会館

7月3日 経営研究会幹事会 平成29年度経営研究会事業計画の検討について 自動車部品会館

7月13日 第2回運営委員会 1. 関東支部運営委員交替確認の結果について 2. 関東支部参加の委嘱について 3. 平成29年度関東支部事業について 芝パークホテル

7月13日 講演会 「矢崎グループのグローバル人材育成制度と今後の課題」講師：矢崎総業(株) 総務人事室副室長 古屋 浩二様 芝パークホテル

7月18日 第2回企画部会 1. 平成29年度通常年次会で承認された事業計画の報告 2. 平成29年度の具体的な事業内容について 自動車部品会館

7月26日 産業実地研修 自動車部品産業の認知度向上を目的に、関係団体との連携により工業高校等の専門高校教員を対象とした自動車部品メーカーの見学・意見交換を実施。市光工業(株)伊勢原製造所

7月31日 リサイクル研究会幹事会 1. 平成28年度事業の振り返りについて 2. 平成29年度事業計画について 自動車部品会館

8月2日 第3回企画部会 工場見学及び工場見学会事業について検討 NECプラットフォームズ(株)掛川工場

### ●行事予定〔9/16～11/15〕

9月30日～10月7日  
ドイツ/チェコ自動車産業視察 ドイツ、チェコ

11月14日・15日  
工場見学会 NECプラットフォームズ(株)掛川工場

## 中部支部

### ●業務報告〔6/16～8/15〕

6月20日 活動計画検討会（環境部会）2017年度活動計画の検討と策定 名古屋栄ビル

6月22～23日  
AIAG コアツール実践2日間セミナー 刈谷市

7月6～7日  
ISO9001:2015 内部監査員2日間セミナー 刈谷市

7月20日 優良施設見学会(環境部会) (株)エフテック 亀山

事業所 三重県亀山市

7月20～21日  
IATF16949:2016 内部監査員2日間セミナー 刈谷市

7月27～28日  
ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー 刈谷市

8月3～4日  
IATF16949:2016 内部監査員2日間セミナー 刈谷市

8月9日 優良企業工場見学会(中小企業部会) 旭鉄工(株) 愛知県碧南市

8月10日 IATF16949:2016 規格解説セミナー 刈谷市

### ●行事予定〔9/16～11/15〕

9月21～29日  
欧州自動車産業視察 ドイツ・フランス

10月12日 局長講演会 「中部地域の産業の展望と課題」(仮題) 中部経済産業局 局長 波多野淳彦氏 名古屋市内

10月13日 優良企業工場見学会 (中小企業部会) エクセディ 大阪府寝屋川市

10月17日 事例選考会 (環境部会) 環境保全代表事例の選考 名古屋栄ビル

11月7日 優良施設見学会 (環境部会) トヨタ車体 刈谷市

## 関西支部

### ●業務報告〔6/16～8/15〕

6月26日 技術分科会 講演会「From Assisted Function to Autonomous Driving」元アウディ・フォルクスワーゲングループ 開発担当取締役 ウルリッヒ ハッケンベルグ氏 京都大学 時計台 百周年記念ホール

6月28日 補修部品分科会 見学会・勉強会「精密油圧制御技術を応用したモノづくりへの貢献」ダイキン工業(株) 淀川製作所 油機事業部 技術部 主席技師 兼 テクノロジー・イノベーションセンター 主席技師 河田健一氏 ダイキン工業(株) テクノロジー・イノベーションセンター

8月9日 第2回正副支部長会, 第1回運営委員会, 情報交換会, 講演会, 懇親会 「書」 書家 杭迫柏樹氏 柘屋

### ●行事予定〔9/16～11/15〕

10月4日 品質分科会 講演会・海外視察報告会

10月13日 技術分科会 講演会 「日産e-Power」

11月8日 生産分科会 工場見学会・柿内先生ご指導会 倉敷化工(株)

11月14日 補修部品分科会 工場見学会※関東支部共催 極東開発工業(株) 三木工場

11月15日 総務分科会 工場見学会 リョービ(株)予定

## 技術関係委員会等の開催状況 (6/16～8/15)

### 1. 総合技術委員会

日時	会議名	開催場所	概要
7月3日	平成29年度第1回総合技術委員会	自動車部品会館	1) METI報告 2) 環境問題への対応について 3) 電子情報化への対応について 4) 基準・認証制度への対応について 5) ITS部会 活動報告 6) 幹事会報告 7) その他 各委員の情報交換等
7月11日	ITS部会 幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会について 2) 平成29年度の活動について 3) SIP-adus報告会について
8月1日	総合技術委員会 幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会審議内容等について 2) 自動運転関係の動きについて

### 2. 基準認証部会関係

日時	会議名	開催場所	概要
7月10日	基準認証部会 中国WG	自動車部品会館	1) ミッション計画について 2) JAMA中国分科会での話題について
7月12日	基準認証部会 インドWG	自動車部品会館	1) インド関連課題・問題事項取りまとめ結果確認 2) 課題対応方針検討
8月2日	基準認証部会 ASEAN-WG	自動車部品会館	1) 官民フォーラムプレゼン等の対応について 2) ASEANミッション計画
	基準認証部会 中近東WG	自動車部品会館	1) JAPIA UAEミッション報告 2) 中近東全体活動確認 3) サウジ情報 4) その他(各国認証状況、今後の進め方等)
8月9日	基準認証部会	自動車部品会館	1) 各活動WGの状況報告 2) 各連絡WGの状況報告 3) JASIC情報

### 3. IT対応委員会関係

日時	会議名	開催場所	概要
6月28日	IT対応委員会	自動車部品会館	1) 平成28年度の活動報告、及び平成29年度の活動計画について
6月29日	CATIA研究会	DSKK(大崎)	1) 基本的なデータ授受について
7月20日	NX研究会	デンソー (刈谷)	1) アンケートに対する回答について
7月21日	DE促進部会幹事会	デンソー (刈谷)	1) 活動日程確認と前回宿題確認 2) 上位委員会・幹事会、JAMA等の情報共有 3) WG活動に関する問題と展開事項の確認 4) 部会での通達内容確認
	DE促進部会	デンソー (刈谷)	1) 上位委員会報告 2) 幹事会検討事項の討議 3) 月次進捗報告 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) WG活動
8月2日	IT対応委員会 自工会・部工会合同幹事会	自動車部品会館	1) TC184/SC4のデジタル活用実証実験について 2) IT対応委員会報告

#### 4. 環境対応委員会関係

日時	会議名	開催場所	概要
6月16日	物質調査システム分科会	名古屋栄ビルディング	1) JAMAシート2.41レビュー結果報告 2) GADSLアンケート結果報告 3) IMDS001a見直しに伴うJAMAシートの材料表記変更に関する情報交換 4) IMDS渉外関係情報紹介
6月20日	LCA分科会 使用段階負荷算出WG	自動車部品会館	1) 新組織体制 2) 活動計画見直し 3) 製造段階も含めたJAPIA標準仕様の議論
6月21日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会報告内容紹介 2) JAMA物質リスト検討分科会報告 3) EU ELV銅合金Big会議結果報告 4) JAMA製品化学物質管理部会報告
6月22日	渉外担当幹事会	自動車部品会館	1) OEMとの情報交換 2) 環境情報誌掲載原稿
	製品環境部会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会報告内容紹介 2) JAMA物質リスト検討分科会報告 3) EU ELV銅合金Big会議結果報告 4) JAMA製品化学物質管理部会報告
6月27日	環境対応委員会	自動車部品会館	1) 環境対応委員会関連会議経過報告 2) 各部会・LCA分科会の今年度活動計画及び課題討議 3) 事務局情報、その他
6月30日	(臨時)物質調査システム分科会	自動車部品会館	1) JAMAシートのBSL検討
7月6日	温暖化防止分科会 CO2削減シナリオTF	ディースクエア(刈谷)	1) 本年度のTF活動について 2) 産業構造審議会や経団連報告に向けた調査方法案 3) 意見交換
7月7日	LCA分科会 統合ツールWG	自動車部品会館	1) 使用段階LCI算出ツールの今後の活動 2) 統合ツールの開発
	LCA分科会	自動車部品会館	1) LCA分科会の対応事項と全体スキーム 2) LCA分科会活動組織体制 3) 活動計画
7月14日	物質調査システム分科会 幹事会	自動車部品会館	1) JAMAシートVer2.50進捗 2) 2018年10月改正の機能、周知方法 3) FAQ改正 4) 集中検討会の実施内容 5) JAPIAホームページ表記見直し
7月18日	温暖化防止推進分科会 事例・情報展開TF	自動車部品会館	1) 見学会の見学先候補決定 2) H28中部事例の海外展開ネタ探し
7月19日	環境保全分科会	自動車部品会館	1) 説明会の開催結果について 2) ガイダンス&補足資料集、環境保全法規一覽改定について 3) 廃棄物削減、水資源の改善事例収集結果について 4) 「水の有効利用」ガイダンスの作成について 5) 経団連(循環型社会形成自主行動計画)フォローアップ調査の進め方について
7月20日	化学物質規制対応分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 新任幹事の紹介 2) 各国法規制動向 3) 物質精査活動 4) 自工会情報 5) 欧州情報ほか
7月21日	LCA分科会 製造+使用段階負荷標準化WG	自動車部品会館	1) メンバー更新 2) 共通システム境界の定義 3) 製造と使用段階の標準データ策定
7月26日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会結果報告 2) JAMA物質リスト検討分科会報告 3) 化学物質規制対応分科会報告 4) 中国ELV規制の最新動向 5) エポキシ樹脂技術協会との打合せ結果

7月27日	渉外担当幹事会	自動車部品会館	1) 各会議体出席結果報告 2) ASEAN出張計画
	製品環境部会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会結果報告 2) JAMA物質リスト検討分科会報告 3) 化学物質規制対応分科会報告 4) 中国ELV規制の最新動向 5) エポキシ樹脂技術協会との打合せ結果
8月2日	鉛規制対応分科会幹事会	自動車部品会館	1) 最新状況の共有 2) 個別除外アイテムの対応 3) 今後の進め方
8月7日	LCA分科会 統合ツールWG	自動車部品会館	1) 統合ツール仕様検討 2) 各社で使用するLCAツールの紹介
8月8日	水銀説明会(名古屋)	名古屋市工業研究所	1) 水銀条約の概要 2) 日本の「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」の概要とQ&A 3) グローバルでの規制の状況 4) 部工委会員企業として実施すべき事項
8月9日	水銀説明会(東京)	東京ウィメンズプラザ	同上

## 5. 品目別部会関係

日時	会議名	開催場所	概要
6月16日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認 2) 第5回ISO国際会議出席報告およびアクションアイテム対応審議 3) 2017-2018年度標準化調査内容検討
6月16日 ～17日	シート部会合同会議	大和ハウス工業 総合技術研究所 (奈良)	1) 平成28年度部会・分科会活動報告 2) 平成28年度部会決算報告 3) 平成29年度部会・分科会活動計画案 4) 平成29年度部会予算案 5) 第19回シート技術研究発表会開催計画 6) 報告事項(基準認証部会関連,JASIC衝撃吸収分科会)
6月19日	車輪技術部会及びタイヤ・ リム合同会議	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2018年度版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
6月20日	オイルシール技術部会	自動車部品会館	1) ISO/TC131/SC7/WG4国際会議報告 2) JIS改訂検討 3) 200回記念企画の検討 4) 平成28年度決算、平成29年度予算案
6月21日	濾器技術部会 グローバル WG	自動車部品会館	1) 日本回答内容 2) JPコメント再審議 3) USコメントリマインド
6月30日	ブレーキホース部会	自動車部品会館	1) 平成29年度活動計画案の検討 2) 平成28年度決算・平成29年度予算案の検討 3) 中国ミッション計画について 4) CCC監査日程について 5) GBと他基準との差異について 6) インド認証に関する課題抽出について
7月5日	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) ISO-FIX用語について 2) CRSインフォーマル会議・CRS国内対応会議報告 3) 未認証チャイルドシート啓発活動について
7月6日	安全装置部会合同会議	フクラシア品川 リスタルスクエア	1) 平成28年度部会・分科会・WG活動報告 2) 平成29年度部会・分科会・WG活動計画 3) 平成28年度部会・分科会決算、平成29年度部会・分科会予算案 4) 部会・分科会役員 部会派遣委員等について 5) GRSP国際会議等JASIC関連報告 6) 基準認証部会関係報告
7月7日	シートベルト分科会 R16マ ネキン精度向上TF	FITパシフィック (つくば)	1) マネキン計測

7月18日	警音器部会	自動車部品会館	1) R28の保安基準への適用方法の最終決定結果報告 2) サプリメント改正の情報共有
7月20日	摩擦材技術部会	自動車部品会館	1) 自技会情報共有 2) JASO/JIS定期見直し案件の処置について 3) ISO会議(対応検討)
7月24日	車輪技術部会及びタイヤ・リム合同会議	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2018年度版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
7月25日	濾器技術部会 WG11小委員会	自動車部品会館	1) RRTに対するまとめ 2) 8/1のWeb-meetingに対する事前打合せ
7月26日	自動運転基準検討部会	自動車部品会館	1) JASIC自動運転基準研究所報告
7月28日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認 2) 第6回ISO国際会議アクションアイテム対応審議 3) 2017-2018年度標準化調査内容検討
	ランプ部会	京都	1) GTB/WG-RCNC会議報告(6/21-22) 2) GTB/WG-Strategy会議報告(7/4) 3) GTB中間WG会議報告(7/19-21) 4) GTB日本開催(2018年5月)の準備状況 5) DRLの2輪車への装着解禁とHL自動切替要件
	ブレーキホース部会	住友理工 グローバル本社(名古屋)	1) 中国ミッション計画の検討 2) 中国CCC監査スケジュール 3) GB/UNの差異について
8月4日	後退警報器部会	自動車部品会館	1) 部会長・副部会長の選任 2) 部会規則、会費の確認 3) 状況報告
	PT熱交換器分科会	自動車部品会館	1) EGRクーラ放熱性能試験方法ISO規格化について
	操舵系技術部会	自動車部品会館	1) ACSF・ITS/AD会議の状況について

## ●行事予定 (9/16～11/15)

月 日	会合名称など	概 要	場 所
9月19日	製品環境部会 幹事会		自動車部品会館
9月20日	IT対応委員会		自動車部品会館
9月21日	NX研究会		シーメンス (新宿)
9月22日	DE促進部会 幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
//	渉外担当幹事会		品川インターシティ
//	製品環境部会		品川インターシティ
//	摩擦技術部会		曙ブレーキ
//	車輪技術部会		自動車部品会館
//	PT熱交換器分科会		自動車部品会館
9月25日	温暖化防止分科会 省エネ事例・情報展開TF		自動車部品会館
9月26日	環境対応委員会		自動車部品会館
9月27日	化学物質規制対応分科会 幹事会		自動車部品会館
9月28日	化学物質規制対応分科会		自動車部品会館

9月29日 ～30日	オイルシール技術部会		箱根
10月4日	第2回総合技術委員会		自動車部品会館
10月13日	基準認証部会 幹事会		大阪
//	基準認証部会		大阪
10月17日	工場用化学物質分科会		自動車部品会館
10月20日	DE促進部会幹事会		沼津労政会館
//	DE促進部会		沼津労政会館
//	物質調査システム分科会 幹事会		自動車部品会館
//	電線部会		自動車部品会館
10月25日	製品環境部会 幹事会		自動車部品会館
//	シート技術研究発表会		コクヨホール (品川)
10月26日	渉外担当幹事会		自動車部品会館
//	製品環境部会		自動車部品会館
11月10日	クッション性分科会		ナック (東京)
11月13日	環境対応委員会		自動車部品会館

## 第45回東京モーターショー2017のご案内

第45回東京モーターショー2017は、2017年10月27日（金）から11月5日（日）までの10日間（一般公開は10月28日（土）から）、「世界を、ここから動かそう。BEYOND THE MOTOR」をテーマに、東京ビッグサイト（江東区・有明）で開催されます。

乗用車、商用車、二輪車、カロッツェリア、車体、部品・機械器具、自動車関連サービスを含む総合ショーとして、全ての国内自動車メーカー14社15ブランド、海外自動車メーカー13社19ブランド（乗用車・商用車・二輪車）が出展する等、世界10ヶ国から150社・団体の出展者が東京ビッグサイトに集結します。

乗用車ではボルボ・カー、二輪車ではハーレーダビッドソンが復帰するほか、スウェーデンの商用車メーカー、スカニアが初出展します。また、会場である東京ビッグサイトは、東7/8ホールが増設されたことにより、前回を超える展示面積規模での開催となります。

詳細は、**東京モーターショーオフィシャルWebサイト**（[www.tokyo-motorshow.com](http://www.tokyo-motorshow.com)）をご覧ください。

# 日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト 678月

▶▶日刊自動車新聞の主要ニュースから部品業界の動きを追う

※( )内の数字は掲載日付

## 行政・団体

6月.....

7月.....

### ■粗悪なチャイルドシートに注意、国交省が警鐘(1日)

国土交通省が、粗悪なチャイルドシートを使わないよう注意喚起している。

### ■人とくるまのテクノロジー展2017名古屋 電子ミラー解禁で提案本格化(1日)

今回が3回目の開催となった自動車技術会(松本宜之会長)主催の「人とくるまのテクノロジー展2017名古屋」には、中部地区の部品メーカーをはじめ、多くのサプライヤーが最新技術・製品を紹介した。

### ■国交省、自動ブレーキの事故防止効果を詳細に検証(4日)

国土交通省は、自動ブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)の事故防止効果を詳細に調べる方針を決めた。

### ■経産省・国交省、燃費表示変更を正式発表(5日)

経済産業省、国土交通省は4日、乗用車の燃費表示を新しくすると正式発表した。

### ■日欧EPA大枠合意、乗用車関税8年でゼロ 部品9割超が即時撤廃(8日)

日本と欧州連合(EU)の経済連携協定(EPA)が大枠合意にこぎ着けた。

### ■総務省、コネクテッドカー実現へ来年度から実証事業(10日)

総務省は、コネクテッドカーに必要な技術や制度の実証事業に来年度から乗り出す。

### ■国土交通省、保安基準に「燃費」追加(14日)

国土交通省は、道路運送車両法に基づく保安基準に燃費を追加する検討に入った。

### ■経産省、自動車向け金型管理適正化へ行動計画(25日)

経済産業省は、自動車部品などの製造に使う「型」管理のあり方に関するアクションプランをまとめた。

### ■AICE、内燃機関の高度化研究に部品メーカーも参加(27日)

国内自動車メーカーを中心に産官学連携で内燃機関を研究する自動車用内燃機関技術研究組合(AICE)は、2019年度から部品メーカーが参画する共同研究に乗り出す。

### ■広がる「サポカー補助金」自治体、一層の普及へ独自制度(31日)

高齢者向けに、自動ブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)などを備えた新車の購入を補助する独自制度を設ける自治体が増えている。

8月.....

### ■AICE、エンジン全ての現象再現 開発負担を軽減(24日)

国内自動車メーカーを中心に産官学連携で内燃機関を研究する自動車用内燃機関技術研究組合(AICE)は、燃焼や抵抗などエンジンの全ての現象をシミュレーションで再現できる開発データ(モデル)の作成に乗り出す。

## 国内

6月.....

### ■タカタ破綻、下請け企業への影響必至 調達先変更や業績悪化も(27日)

欠陥エアバッグ問題で経営危機を迎えていたタカタが26日、東京地方裁判所に民事再生法を申請したことで迷走を続けていたタカタの最終的な処理がようやく前進した。

7月.....

### ■ポッシュ、高精度に位置特定 カメラとレーダー 地図を組み合わせて(2日)

独ロバート・ポッシュは、レーダー技術で収集した障害物情報と高精度地図情報を照らし合わせることで、誤差数センチメートル単位で自車位置を把握できる「レーダー・ロード・シグネチャー」を開発した。

### ■トヨタ紡織、関係強化狙いタチエス株を取得(4日)

トヨタ紡織は、6月29日付でタチエスの発行済み株式の4.17%に当たる152万1千株を約30億円で取得した。

### ■NTN、阪大と共同研究所 次世代EVなどで協力(6日)

NTNは、大阪大学大学院工学研究科に共同研究所を開設したと発表した。

### ■ロバート・ポッシュ、20年にも48ボルト低電圧フルハイブリッド実用化へ(10日)

ロバート・ポッシュは、早ければ2020年にも48ボルト低電圧で、モーターのみで走行できるフルハイブリッドシステムを実用化する。

### ■インクリメント・ピー、ヒアと自動運転用高精度地図サービスマで提携(12日)

パイオニアは、全額出資子会社のインクリメント・ピーとオ



**NOK**  
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

**NOK株式会社**  
〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

## クローズアップ

### アディエント、未来のシート開発へ 自動運転車を想定、フルフラットに近い傾斜角

米アディエントは自動運転車用シートを開発する。上級モデルの自動運転車向けシートのコンセプトモデル「AI17」を開発したのに続き、新しいコンセプトを取り入れた自動運転車用シートを開発して、9月のフランクフルトモーターショーに出展する。AI17は座席の旋回やシート傾斜角度の拡大など、自動運転車で重視される車内空間の快適性を向上する機能を備えたほか、シート構造の軽量化も図った。日本法人がAI17のデモ機を使って自動車メーカーに提案するとともに、各社の要望を今後の製品開発に反映させることで受注につなげる。(7月21日付)



ランダの地図大手HERE (ヒア) が、自動運転車用のグローバルな高精度地図サービスでの提携に合意したと発表した。

#### ■日清紡ケミカル、FCV向け事業に本格参入 (13日)

日清紡ケミカル (佐々木肇社長、東京都中央区) は、燃料電池車 (FCV) 向けの事業に本格参入する。

#### ■豊田合成、ヘッドランプ用LED光源に参入(14日)

豊田合成は、自動車ヘッドランプ用LED光源に参入すると発表した。

#### ■電動操舵システムの開発加速、ステアバイワイヤ技術が本格化 (15日)

自動運転や先進運転支援システム (ADAS) が進化する中で、電動操舵システムの開発が加速している。

#### ■豊田合成、新構造サイドエアバッグ開発 体の部位に合わせて展開 (20日)

豊田合成は、トヨタ自動車と共同で「新型サイドエアバッグ」を開発したと発表。

#### ■ダイセル、生産管理にIoT活用 エアバッグインフレーター品質向上を徹底 (26日)

ダイセルは、2020年を目標に、自動車エアバッグ用インフレーター生産で、IoT (モノのインターネット) を活用したグローバルな生産管理体制を構築する。

#### ■三菱自の業績“V字回復” 4~6月期増収増益、日産との協業成果 (27日)

三菱自動車が発表した2017年4~6月期 (18年3月期第1四半期) の決算は、営業利益が前年同期比4.5倍の206億円、当期純利益が230億円 (前期は1297億円の赤字) だった。

#### ■パナソニック“眠くなりそう”を予測 人工知能を活用 (28日)

パナソニックのオートモーティブ&インダストリアルシステムズ社 (AIS) は、ドライバーの眠気を予測して覚醒を促す技術を開発した。

#### ■アルプス電気とアルパインが経営統合 (28日)

アルプス電気は、アルパインと経営統合する。

#### 8月.....

#### ■日産の新中計、企画段階からコスト解析 サプライヤー提案生かす (2日)

日産自動車は2017年度を初年度とする新中期経営計画で、新車企画の早い段階から部品のコストを最適化する活動に一段と力を入れる。

#### ■住友金属鉱山、リチウム電池の銅とニッケル 回収して再資源化 (3日)

住友金属鉱山は、熱処理などによって無害化した使用済みリチウムイオン二次電池とリチウムイオン二次電池の製造過程で発生する中間物に含まれる銅とニッケルを回収して再資源化する技術を日本で初めて実用化したと発表した。

#### ■トヨタ、マツダ資本提携合意 米で30万台規模の生産合併、EVを共同開発 (4日)

トヨタ自動車とマツダは、業務資本提携に関する合意書を締結したと発表。

#### ■ソフトバンク、新型ベンツSクラステレマサービスにデータ通信回線など提供 (10日)

ソフトバンクはメルセデス・ベンツ日本 (MBJ) が9月に発売する新型「Sクラス」のテレマティクスサービス「メルセデス・ミー・コネク」にデータ通信回線やグローバル機器間通信 (M2M) 管理プラットフォームを提供する。

#### ■タイヤメーカー4社決算、全社が通期予想上方修正 (14日)

国内タイヤメーカー4社の2017年中間期 (1~6月) の業績が出揃った。

#### ■オンキヨー、つながる車に対応へAI搭載のスピーカーSDL加盟し開発 (16日)

オンキヨーは、コネクテッドカーに対応するAI (人工知能) を搭載した車載用スマートスピーカーを開発する。

#### ■ダイハツ、部品軸シナリオを策定 品目ごとに最適な仕様 (23日)

ダイハツ工業は中長期の競争力向上へ、部品ごとの最適な仕様を定める部品軸シナリオを策定する。

#### ■米KSS、タカタ買収へ経営委 社長退任に伴い (25日)

安全部品を手掛け、タカタの事業を買収する予定の米キーセイフティー・システムズ (KSS) は、ジェイソン・ルオ社長兼CEOが退任したと発表した。

#### ■スバル、欠陥エアバッグで特損813億円を計上 今期、下方修正 (26日)

スバルは、2018年3月期の連結純利益が前期比19.8%減の2285億円になる見通しだと発表した。

## 海外

#### 6月.....

#### 7月.....

#### ■TECコネクティビティ、独アンテナ企業買収 (2日)

# 日刊自ダイジェスト

コネクタ、センサーなどを手掛けるTEコネクティブティ(本社=スイス)は、米ヴォックス・インターナショナル傘下の独ヒルシュマン・カー・コミュニケーションを買収することで合意した。

## ■NVIDIA、百度と広範囲に提携 (10日)

米国NVIDIA(エヌビディア)は、中国の百度(バイドゥ)と、自動運転車やクラウドデータセンターなどに人工知能(AI)を活用する広範囲な分野で提携することで合意したと発表した。

## 8月.....

## ■横浜ゴム、フィリピン工場の火災で特損50億円 (14日)

横浜ゴムは2017年12月期連結業績で、5月に発生したフィリピン工場の火災で特別損失を50億円計上する見通しを発表。

## ■ミシュラン、米テレマティクス買収 戦略分野を強化 (25日)

仏ミシュランは、商用車トラック向けにテレマティクスサービスを提供している米NexTraqを買収する。

## 市場

## 6月.....

## 7月.....

## ■軽自動車の普及、頭打ち16年末時点で100世帯当たり54.34台で微増 (11日)

全国軽自動車協会連合会は、2016年末時点の軽四輪車の世帯当たり普及台数を発表。

## ■昨年の自動車盗難15.7%減 (11日)

2016年の自動車盗難認知件数は1万1655件(前年比15.7%減)だったことが警察庁の統計で分かった。

## ■国内生産3年ぶりプラス 1~6月、内需に加え輸出好調 (29日)

乗用車メーカー8社が発表した2017年上期(1~6月)の生産・販売・輸出実績によると、8社合計の国内生産台数は前年同期比8.4%増の459万8562台となり、3年ぶりに前年同期を上回った。

## ■世界販売、上期最高が4社 国内全7社が前年超え (29日)

乗用車メーカー7社(ホンダを除く)が発表した2017年上期(1~6月)の世界販売実績で、トヨタ自動車、日産自動車、スズキ、マツダが上期として過去最高を記録した。

## ■トヨタ系サプライヤー4~6月期 大手5社が増収増益 中国で受注増や合理化効果 (29日)

トヨタ自動車系大手部品メーカー7社は、2017年4~6月期(第1四半期)決算を発表した。

## 8月.....

## ■カーナビ各社4~6月期、国内好調も3社減収 (17日)

国内カーナビゲーションメーカーの2017年4~6月期(第1四半期)の業績は、米国市場での新車販売が前年を割り込んでいる影響から、自動車メーカー(OEM)向けカーエレクトロニクス製品の販売が低迷し、5社のうち、3社が減収となった。

## ■部品メーカー126社 17年4~6月期、79社が増収増益 (19日)

日刊自動車新聞がまとめた上場自動車部品メーカー126社の2017年4~6月期(第1四半期)の連結決算によると、合計売上高は前年同期比8.4%増の10兆1909億円、営業利益が同22.4%増の6497億円と増収増益となった。

## ■福井が16年連続首位 乗用車普及は頭打ち、3月末時点 (22日)

自動車検査登録情報協会(自検協、後藤悦治郎理事長)はこのほど、2017年3月末時点での自家用乗用車(含軽)の世帯当たりの普及台数が1.062台で、前年より0.002台減少したと発表。

## ■日産系部品6社4~6月期、5社が増収増益 日中好調、米は苦戦 (22日)

日産自動車を主要納入先とする日産系上場サプライヤー6社(日産車体を除く)の2017年4~6月期(第1四半期)決算は、日産の新車生産が好調なことに伴う受注の増加や、原価低減活動などの合理化効果により、河西工業を除く5社が増収増益となった。

## ■HV世界販売上期 トヨタ、ホンダとも増 国内は一巡、海外伸長 (25日)

トヨタ自動車とホンダのハイブリッド車(HV)世界販売が増勢基調を強めている。

## 記者の目

## IoT導入で品質管理の徹底を図る

自動車部品の品質管理があらためて問われている。自動車メーカーが開発の効率化をねらい部品共通化を推進する一方で、共通化の拡大によって大型リコールの発生が散見されるようになった。大型リコールは莫大な経済損失に加え、ユーザー信頼を大きく損なう事態につながりかねないため、不具合防止のさらなる徹底が求められている。

こうした中、IoT(モノのインターネット)を活用し、不具合が生じた部品をピンポイントで見分ける品質管理の実現にめどをつけたサプライヤーが出てきた。複数のカメラでスタッフや設備を常時モニター、作業状況を人工

知能(AI)で自動解析する。そして作業員が通常と異なる動きになるなど“異常”を検知した場合、その時点で生産していた部品を特定し良否を確認する。1ロット4000個の生産品の中から不良の可能性がある部品を40個に絞り込める。作業は常時録画、過去に遡り異常を検証できる。

このサプライヤーはIoT導入について「不良品発生率は限りなくゼロに近づいたが、完全に無くすことは物理的に不可能だ。このため不良品を確実に見分け流出を完璧に防止することにした」とねらいを述べた。新管理手法が、車のさらなる安心・安全の支になることが期待される。(P)



このダイジェストは6月26日~8月26日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連の記事を抜粋。詳しくは日刊自動車新聞電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

# 指標・統計

## ■自動車の生産・販売・輸出 (自工会調)

### 1. 四輪車の生産実績

(単位：台)

	2017. 4月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2017. 5月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
乗用車	638,295	97.8	2,839,129	96.7	593,895	90.7	3,433,024	95.6
普通車	402,952	110.5	1,686,501	105.2	369,151	101.9	2,055,652	104.6
小型四輪車	124,891	91.6	615,586	95.8	117,331	83.9	732,917	93.7
軽四輪車	110,452	72.9	537,042	77.6	107,413	70.1	644,455	76.2
トラック	99,646	92.5	411,012	91.1	90,082	82.8	501,094	89.5
バス	11,146	106.9	41,101	89.0	9,165	89.3	50,266	89.0
合計	<b>749,087</b>	<b>97.2</b>	<b>3,291,242</b>	<b>95.8</b>	<b>693,142</b>	<b>89.5</b>	<b>3,984,384</b>	<b>94.7</b>

### 2. 四輪車の国内販売実績

(単位：台)

	2017. 4月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2017. 5月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
乗用車	297,284	101.5	1,637,795	87.0	312,389	102.6	1,950,184	89.2
普通車	97,719	129.2	570,959	97.7	112,036	131.1	682,995	102.0
小型四輪車	98,155	109.2	525,923	93.5	94,899	101.9	620,822	94.7
軽四輪車	101,410	79.6	540,913	73.5	105,454	83.9	646,367	75.0
トラック	56,328	108.8	288,398	95.4	59,338	101.5	347,736	96.4
バス	1,135	176.5	6,303	132.2	849	165.5	7,152	135.5
合計	<b>354,747</b>	<b>102.8</b>	<b>1,932,496</b>	<b>88.2</b>	<b>372,576</b>	<b>102.5</b>	<b>2,305,072</b>	<b>90.3</b>

### 3. 四輪車の輸出実績

(単位：台)

	2017. 4月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2017. 5月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
乗用車	334,203	103.7	1,325,933	105.8	285,687	103.2	1,611,620	105.3
普通車	310,816	104.0	1,239,101	106.3	270,724	105.3	1,509,825	106.1
小型四輪車	23,341	102.2	86,127	100.7	14,665	74.6	100,792	95.8
軽四輪車	46	12.7	705	53.7	298	298.0	1,003	70.9
トラック	27,432	66.0	120,364	77.5	25,457	71.9	145,821	76.5
バス	10,192	84.2	36,857	78.4	9,111	95.9	45,968	81.4
合計	<b>371,827</b>	<b>98.9</b>	<b>1,483,154</b>	<b>101.9</b>	<b>320,255</b>	<b>99.5</b>	<b>1,803,409</b>	<b>101.5</b>

## ■自動車部品の生産・輸出・輸入

### 1. 自動車部品の生産 (経済産業省「生産動態統計」)

(単位：百万円)

		2017. 4月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2017. 5月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
総括	自動車部品 41品目	553,919	111.5	2,274,606	109.5	506,477	106.4	2,781,083	108.9
	関連自動車部品 9品目	115,973	122.0	471,091	112.1	107,858	117.7	578,949	113.1
	内燃機関電装品 5品目	32,425	99.4	130,570	100.0	29,184	101.1	159,754	100.2
	二輪車部品 4品目	5,697	110.8	24,375	108.9	5,382	118.1	29,757	110.5
	合計	<b>708,014</b>	<b>112.4</b>	<b>2,900,642</b>	<b>109.4</b>	<b>648,901</b>	<b>108.0</b>	<b>3,549,543</b>	<b>109.2</b>

# 指標・統計

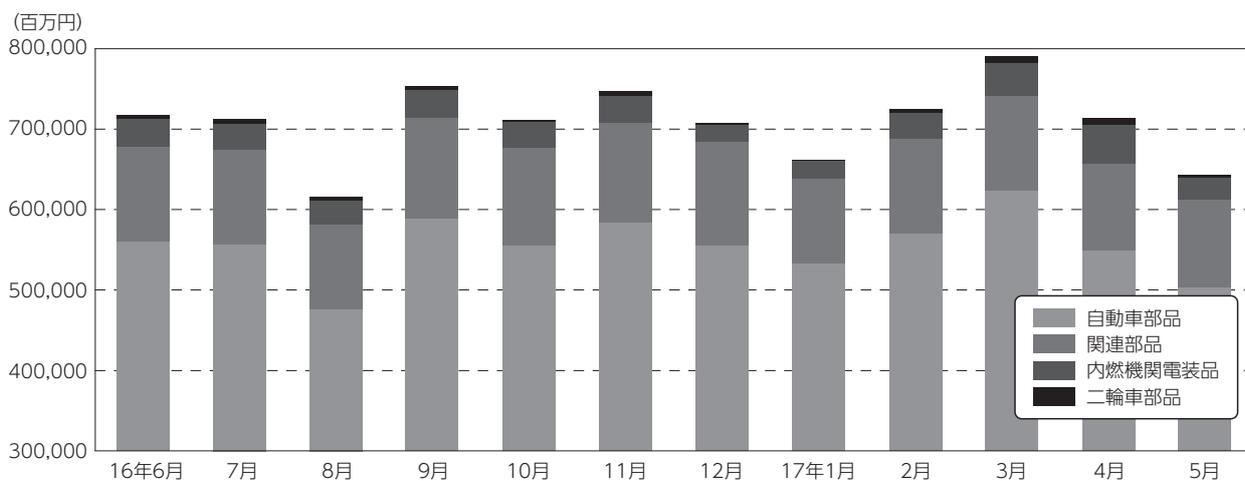
		2017. 4月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 5月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	
自動車部品 (部品4)	1	ピストン	3,867	121.0	14,484	110.6	3,463	108.7	17,947	110.3
	2	ピストンリング	3,550	102.6	14,982	108.3	3,392	109.8	18,374	108.5
	3	シリンダーライナ	1,648	102.0	6,818	101.2	1,550	106.1	8,368	102.1
	4	吸気弁・排気弁	3,708	112.2	15,061	109.0	3,330	114.1	18,391	109.9
	5	ガスケット	2,301	100.1	9,340	98.1	2,102	96.4	11,442	97.8
	6	燃料ポンプ	1,440	103.9	6,344	104.7	1,489	118.1	7,833	107.0
	7	化器・燃料噴射装置	21,245	96.6	86,282	98.3	20,985	100.4	107,267	98.7
	8	空気清浄器	2,103	113.1	8,344	103.4	1,926	107.3	10,270	104.1
	9	油清浄器	1,754	96.9	7,155	99.7	1,728	98.7	8,883	99.5
	10	油ポンプ	2,548	108.7	10,519	107.2	2,294	103.4	12,813	106.5
	11	水ポンプ	2,147	111.8	8,594	104.9	1,918	101.4	10,512	104.2
	12	放熱器 (ラジエータ)	13,880	108.3	58,191	102.0	12,982	103.7	71,173	102.3
	13	クラッチ装置	4,644	91.7	21,549	93.6	4,154	90.7	25,703	93.1
	14	自動変速装置	198,010	109.2	795,487	113.6	180,615	111.9	976,102	113.3
	15	ユニバーサルジョイント	3,462	114.9	13,776	114.0	3,093	113.5	16,869	113.9
	16	プロペラシャフト	4,932	122.7	19,440	108.4	4,008	97.9	23,448	106.5
	17	車輪	8,109	111.7	33,342	105.6	7,613	107.7	40,955	106.0
	18	かじ取りハンドル	3,524	146.7	14,542	126.8	3,332	128.1	17,874	127.0
	19	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	36,476	107.3	151,238	107.6	32,875	102.1	184,113	106.6
	20	ショックアブソーバ	9,673	91.2	40,813	87.6	9,219	83.2	50,032	86.8
	21	ブレーキ倍力装置	2,090	104.4	9,167	102.6	1,978	109.5	11,145	103.8
	22	ブレーキシリンダ	4,564	131.1	18,313	124.3	4,253	131.7	22,566	125.6
	23	ブレーキパイプ	2,831	103.1	11,458	104.1	2,680	111.6	14,138	105.5
	24	ブレーキシュー	2,677	101.3	10,596	94.2	2,460	96.5	13,056	94.7
	25	電子式ブレーキ制御装置	21,899	126.2	86,876	142.5	20,140	120.9	107,016	137.9
	26	燃料タンク (LPG用を除く)	6,794	112.1	28,742	102.4	6,063	99.5	34,805	101.9
	27	排気管・消音器	27,896	117.5	117,732	103.4	25,278	103.4	143,010	103.4
	28	窓わく	2,650	129.6	11,412	117.2	2,439	112.1	13,851	116.3
	29	ドアヒンジ・ドアハンドル・ロック	7,195	116.2	28,386	104.2	6,633	107.2	35,019	104.8
	30	窓ガラス開閉装置	4,076	103.7	17,871	108.0	3,973	98.5	21,844	106.2
	31	シート	70,864	129.0	304,623	143.1	64,466	103.5	369,089	134.1
	32	シートベルト	7,121	99.0	29,984	33.3	6,501	91.3	36,485	37.5
	33	エアバックモジュール	8,246	135.6	33,506	117.1	7,625	110.1	41,131	115.7
	34	スイッチ類	15,214	110.6	62,703	116.6	13,495	105.3	76,198	114.4
	35	計器類	10,390	95.5	42,988	93.4	8,968	91.7	51,956	93.1
	36	ワイパー	7,591	117.5	30,382	109.4	6,542	109.4	36,924	109.4
	37	警音器	1,679	117.9	6,741	114.4	1,522	116.7	8,263	114.8
	38	暖房装置	5,467	106.8	23,542	98.9	5,158	97.8	28,700	98.7
	39	軸受メタル	3,641	101.0	15,548	97.0	3,336	95.5	18,884	96.7
	40	ブッシュ	2,853	103.6	11,275	103.0	2,561	104.3	13,836	103.3
	41	オイルシール	9,160	104.7	36,460	104.2	8,338	105.6	44,798	104.5
		<b>合計</b>	<b>553,919</b>	<b>111.5</b>	<b>2,274,606</b>	<b>109.5</b>	<b>506,477</b>	<b>106.4</b>	<b>2,781,083</b>	<b>108.9</b>
自動車部品 (部品5)	1	かさね板ばね	2,177	115.4	8,325	100.9	1,991	102.2	10,316	101.1
	2	つまさきばね	1,806	113.0	7,276	106.3	1,636	111.1	8,912	107.1
	3	線ばね (自動車用)	5,082	106.3	20,378	106.5	4,511	104.1	24,889	106.0
	4	エアコンディショナ (乗用車用)	25,211	119.3	103,109	104.4	24,755	112.7	127,864	105.9
	5	白熱電球 (自動車用)	770	106.1	3,230	107.6	695	100.1	3,925	106.2
	6	電気照明器具 (自動車用)	41,609	136.3	173,732	120.8	38,234	121.2	211,966	120.9
	7	カーオーディオ	3,985	84.0	15,253	74.8	3,747	79.2	19,000	75.7
	8	カーナビゲーションシステム	27,032	91.2	113,354	94.4	25,156	100.7	138,510	95.5
	9	鉛蓄電池 (自動車用)	8,301	107.6	34,429	99.6	7,133	117.4	41,562	102.2
		<b>合計</b>	<b>115,973</b>	<b>122.0</b>	<b>471,091</b>	<b>112.1</b>	<b>107,858</b>	<b>117.7</b>	<b>578,949</b>	<b>113.1</b>

		2017. 4月分	対前年 同比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2017. 5月分	対前年 同比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	
内燃機関電装品 (品目5)	1	充電発電機(ダイナモ)	6,489	95.3	27,056	95.1	5,545	100.6	32,601	96.0
	2	始動電動機(スタータ)	7,448	90.6	28,993	91.4	6,602	102.8	35,595	93.3
	3	配電器(ディストリビュータ)	366	72.5	1,566	80.4	314	71.9	1,880	78.8
	4	点火線輪(イグニッションコイル)	7,307	100.3	29,251	100.9	6,455	96.7	35,706	100.1
	5	点火栓(プラグ)	10,815	110.2	43,704	110.9	10,268	104.6	53,972	109.7
		合計	32,425	99.4	130,570	100.0	29,184	101.1	159,754	100.2
二輪自動車部品 (品目4)	1	気化器	871	110.0	3,441	107.6	736	103.2	4,177	106.8
	2	ショックアブソーバ	2,040	99.2	9,139	110.6	2,071	119.8	11,210	112.2
	3	計器類	777	100.1	3,516	94.7	701	90.1	4,217	93.9
	4	ブレーキ装置	2,009	132.3	8,279	114.9	1,874	140.0	10,153	118.8
		合計	5,697	110.8	24,375	108.9	5,382	118.1	29,757	110.5

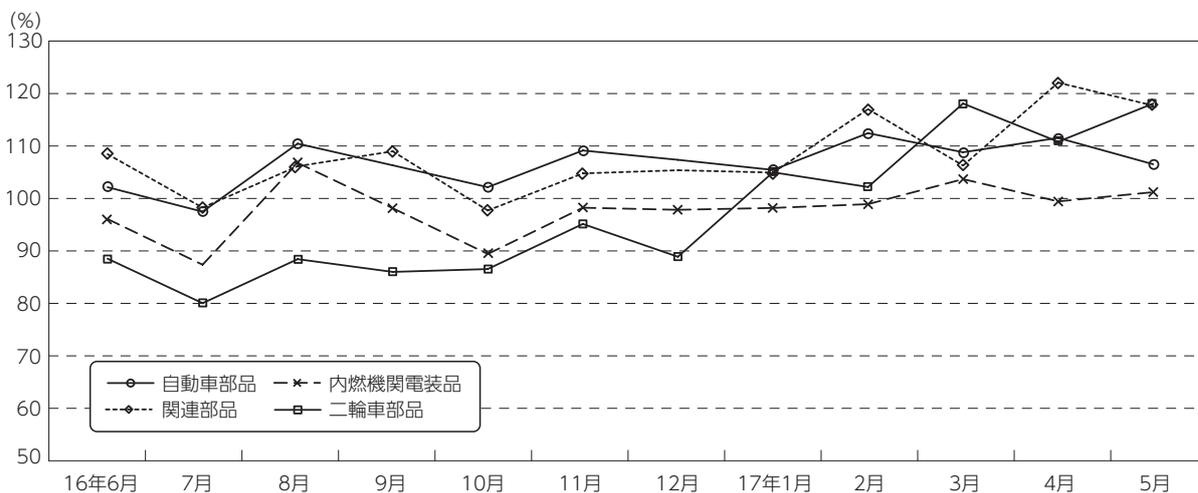
(注)

- 平成26年1月分より/経済産業省「生産動態統計」の見直しにより、「エアバッグモジュール」の定義が変更されました。そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。
- 平成26年1月分より/経済産業省「生産動態統計」の見直しにより、「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。
- 平成29年1月分より/品目の掲載順序・表記名を一部変更しました。

## ■最近12ヶ月の自動車部品の生産推移



## ■自動車部品生産の対前年同月比の状況





黄海経済自由区域 | 中国向けの輸出入前進基地。先端・成長産業の国際的な協力拠点

## | 投資の長所 |

### 1. 先端産業クラスターの形成

- ▶ 自動車(現代起亜), 半導体(サムスン電子), ディスプレイ(LG), 鉄鋼(現代製鉄)クラスター
- ▶ 玄谷、魚淵、閑山など、近隣8つの外国人専用賃貸団地の分譲率 100%

### 2. 周辺における大規模開発

- ▶ 世界最大級の半導体工場  
(① サムスン電子 古徳産業団地, 2016. 9.)
- ▶ 機械・電子など、有望新産業のハブ  
(② LG振威産業団地, 2017. 12.)
- ▶ 親水型グローバル観光リゾート  
(③ 平沢湖 観光団地, 2021.)
- ▶ 東北アジアにおける最大規模の平沢米軍基地  
(④ K-6, 2016.)

### 3. 巨大な国内外の背後市場

- ▶ 韓国人口60%の約3千万人が居住
- ▶ 1時間30分の飛行距離内に百万人以上の国際的都市が50所在

### 4. 便利な交通インフラ

- ▶ 仁川国際空港・清州国際空港から1時間
- ▶ 平沢 芝制駅 → ソウル (SRT, 20分)

### 5. 豊富な優秀人材の宝庫

- ▶ 韓国における研究開発人材の51%, 半導体従事者の60%
- ▶ 首都圏に位置する117大学(全国の34%)

### 6. 中韓FTAの最大受益地域

- ▶ 中国の沿岸産業ベルトから最短距離に位置 (寧城から396km, 烟台から505km)
- ▶ 自動車による物資流動量において韓国トップである平沢港は、東北アジアの海上物流ハブに成長すると期待されている (2016年、63船席 → 2030年、92船席)



**黄海経済自由区域庁**  
YELLOW SEA FREE ECONOMIC ZONE AUTHORITY

ウェブサイト | <http://yesfez.gg.go.kr>

投資相談 | +82-31-8008-8593 / 8632

自動車業界に精通したISO審査で  
環境・品質マネジメントシステムの  
マンネリ化を脱してみませんか？

<http://www.jari-rb.jp/ja>



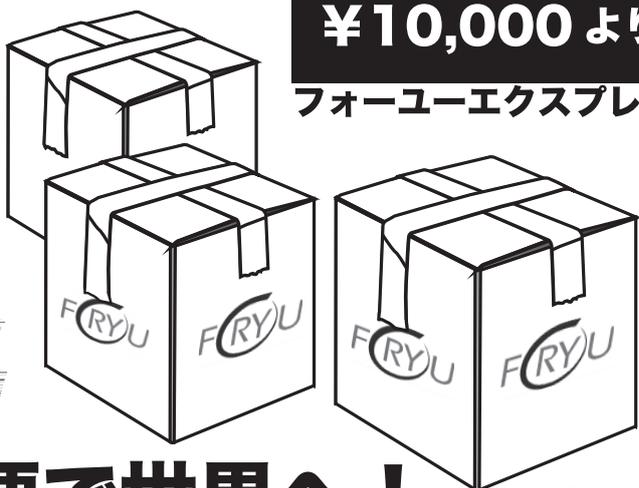
一般財団法人日本自動車研究所 認証センター  
JARI-RB

日本から中国へ、中国から日本へ、  
航空貨物より速く、  
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

定期便ご利用なら、  
¥10,000より

フォーユーエクスプレス

# 最速



## そしてチャーター便で世界へ！

日本→東南アジア、北中米、ヨーロッパ、中東 etc  
中国→東南アジア、北中米、ヨーロッパ、中東 etc お任せ下さい。



安心、確実、丁寧な  
ハンドキャリーで  
皆様のご要望に答えます。

日中間だけでなく世界中あらゆる地域への  
ハンドキャリーにも対応します。

TEL : 03-5651-5685 Mail : [info@foryouexpress.jp](mailto:info@foryouexpress.jp)  
FAX : 03-3661-8170 URL : <http://foryouexpress.jp/>



フォーユーエクスプレス 検索



信頼で選ぶなら

WHY?  
NTK?  
O<sub>2</sub> SENSOR ■

# 35 社

O<sub>2</sub>センサは排気ガスのクリーン化に不可欠な部品。NTK O<sub>2</sub>センサは世界35の自動車メーカーに純正採用され世界各国の環境の為に働いています。交換するなら世界で認められている性能と信頼性のNTKO<sub>2</sub>センサ。

酸素センサ  
**NTK O<sub>2</sub> SENSOR**



レーシングドライバー 佐藤琢磨

**NGK|NTK** 日本特殊陶業  
スパークプラグ ニューセラミック

<http://www.ngkntk.co.jp/>